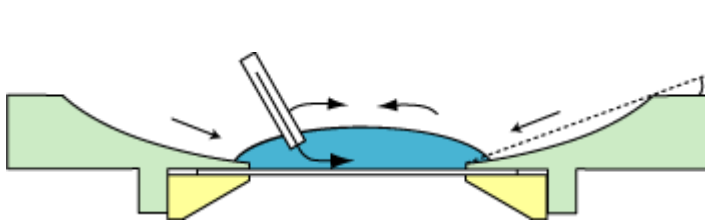


より明瞭な観察を行いたい時には

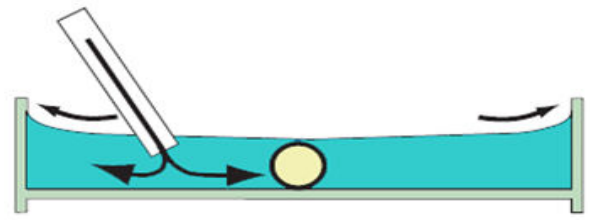
スライスパッチ法による観察の際には、細胞をより長生きさせ、余分な刺激を与えないように灌流装置を用いるのが普通です。しかし、灌流装置によって液体がディッシュ内に流れ込むと、液体による波が発生したり、色々な方向に流れができて観察が難しくなります。また、プラスチック製のディッシュでは屈折率の関係でイメージを阻害してしまうなどの問題があり、そのような高度な観察ではガラスボトムディッシュを用いる事が標準になっています。

プラスチックディッシュの底にカバーガラスを接着したタイプの使い捨てのガラスボトムディッシュは市販されていますが、一般のディッシュより高価であり、洗浄して使うとガラス部分が剥がれてしまったり、割れてしまったり、接着部に不純物が残ってしまったりといった事が起こります。そこでナリシゲでは、底面のカバーガラス部分だけを使い捨てにできるチャンバーディッシュ、CK-1を開発しました。また、再利用をすることを前提にし、通常のディッシュにはない色々な工夫を凝らしています。

使い捨てのディッシュでは出来ない工夫を



CK-1

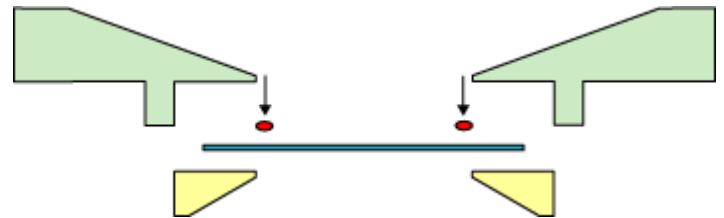
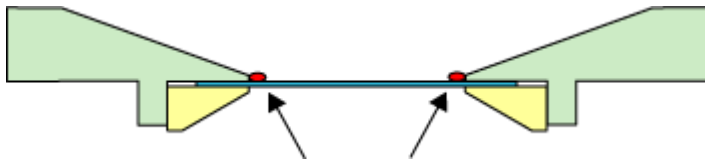


一般的なディッシュ

滑らかで緩やかな傾斜を持ったディッシュの形状を持つ事により、中心部分に液体が集まり表面張力によるドームとなります。それにより流れが中心に集まり、液面が安定します。また、一般のディッシュに比べ、高価な薬液を少ない量で観察できるようになっています。表面張力により中心部が盛り上がるので、少ない薬液で水侵や油侵のレンズを使う場合にも、十分に液面に接することが出来ます。

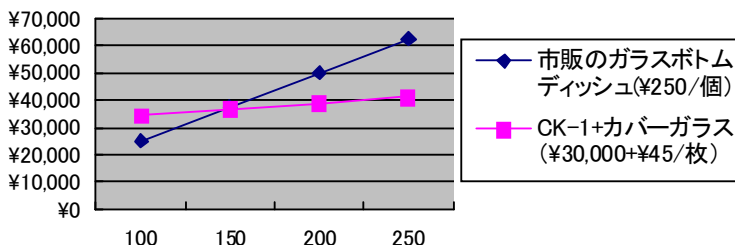
液面が安定しているので、観察の際の揺らぎやぶれが少なく、明瞭な観察を行う事ができます。

洗浄しにくい部分をなくし、再利用しやすい工夫を



再利用することを前提に考えて、洗浄のしやすさにも工夫を凝らしています。左図の赤い部分に汚れが残りやすいですが、右図のようにカバーガラス部分を外すことにより、フチや隅が無くなり、洗浄しやすくなっています。また、カバーガラスに対しての処理や、傷や汚れによる交換も容易になっています。カバーガラスは市販のφ22mmサイズのものを利用できます。

地球にもコストにも優しく



イニシャルコストは掛かりますが、使い捨てタイプのガラスボトムディッシュに比較してカバーガラスが安価なため、使えば使うほど差が出てきます。

また、ディッシュ全体がゴミになってしまう使い捨てタイプのガラスボトムディッシュと違い、カバーガラスの交換のみなので環境にも優しくなっています。

顕微鏡への安定した取り付けが可能に

新製品のCK-1Aによって、弊社製ITSやオリンパス製顕微鏡のステージに安定してCK-1をセットすることが出来ます。

より詳しくは是非商品ページをご覧ください！

ご不明な点等がございましたら、お気軽に弊社までお問い合わせ下さい。